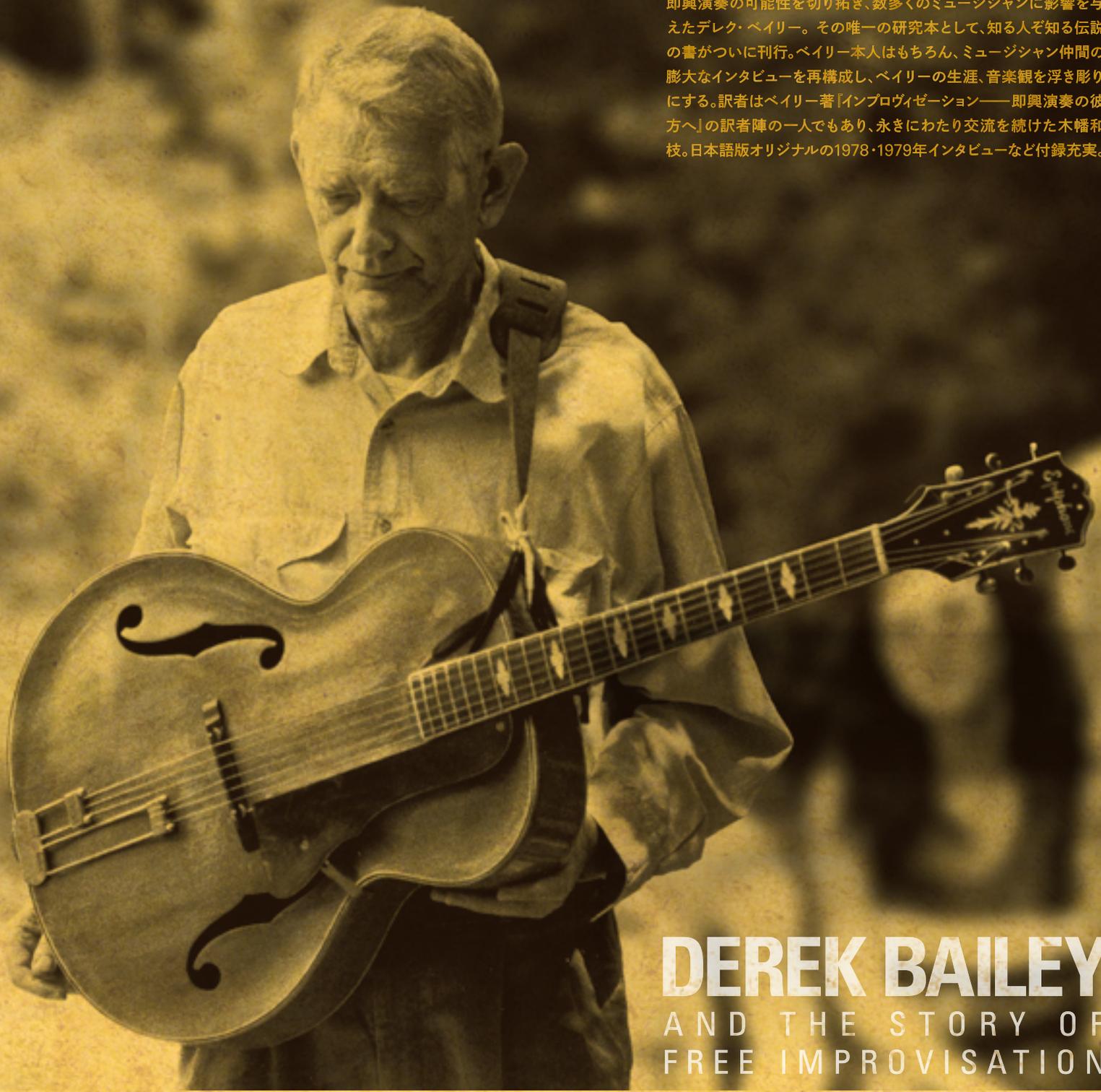


即興演奏の可能性を切り拓き、数多くのミュージシャンに影響を与えたデレク・ベイリー。その唯一の研究本として、知る人ぞ知る伝説の書がついに刊行。ベイリー本人はもちろん、ミュージシャン仲間の膨大なインタビューを再構成し、ベイリーの生涯、音楽観を浮き彫りにする。訳者はベイリー著「インプロヴィゼーション——即興演奏の彼方へ」の訳者陣の一人でもあり、永きにわたり交流を続けた木幡和枝。日本語版オリジナルの1978・1979年インタビューなど付録充実。



DEREK BAILEY
AND THE STORY OF
FREE IMPROVISATION

デレク・ベイリー

インプロヴィゼーションの物語 | **ベン・ワトソン** 著 **木幡和枝** 訳
A5判上製 | 2段組 | 584頁 | 予価 5500円+税

John Cage / Tony Oxley / Gavin Bryars / Anthony Braxton / Brian Eno / Fred Frith / John McLaughlin /
John Stevens / Michael Nyman / Jamie Muir / Evan Parker / Han Bennink / Steve Lacy / John Tchicai /
John Zorn / Milford Graves / Cecil Taylor / Aquirax Aida / Toshinori Kondo / Min Tanakaetc.

DEREK BAILEY AND THE STORY OF FREE IMPROVISATION

【話題に上るミュージシャン／アーティスト】

ジョン・ケージ/トニー・オクスリー/ギャヴィン・ブライヤーズ/アンソニー・ブラクストン/ライアン・イーノ/フレッド・プリス/ジョン・マクラフリン/ジョン・スティーヴンス/マイケル・ナイマン/ジェイミー・ミューア/エヴァン・パーカー/ハン・ベニク/スティーヴ・レイシー/ジョン・チカイ/ジョン・ゾーン/ミルフォード・グレイヴス/セシル・テイラー/間章/近藤等則/田中泯……etc.

【目次】

Photo Gallery

- 序章——自由について
- 第1章——子ども時代、10代：1930-1951
- 第2章——ギタリスト稼業：1950-1963
- 第3章——ジョゼフ・ホルブルック・トリオ：1963-1966
- 第4章——ソロ演奏と自由の問題：1966-1977
- 第5章——カンパニー・ウィーク：1977-1994
- 第6章——インプロヴ・インターナショナル
- 最終章——インプロヴィゼーションについて
- 付録1——デレク・ベイリー/インタビュー1998年
デレク・ベイリーの「めかくし・ジューク・ボックス」完全版
[インタビュー：ベン・ワトソン]
- 付録2——デレク・ベイリー/インタビュー1978・1979年(日本語版オリジナル収録)
即興音楽と時間——演奏の自在境におもむく
[インタビュー：木幡和枝]
- 付録3——デレク・ベイリー・ディスコグラフィー
- 付録4——インカス・ディスコグラフィー
- 人名索引

デレク・ベイリー

Derek Bailey 1930-2005

1930年1月29日、イギリスのヨークシャー州シェフィールドに生まれる。独学でギターを習得し、55年から65年にかけて、ダンス・ホール、劇場、放送局、レコーディング・スタジオなどで、プロの“コマーシャル”ギタリストとして従事。60年代半ばからフリー・インプロヴィゼーションを中心とした音楽活動を実践する。70年、エヴァン・パーカーらとともにフリー・ミュージックのレコード会社(インカス)を設立。以降、ソロをはじめ、自身が主宰する即興演奏家の集団(カンパニー)とともに、インプロヴィゼーションの可能性を追求。2005年12月25日、MND(運動ニューロン疾患)のため死去。翌年日本で開かれた追悼コンサートには近藤等則、大友良英、灰野敬二、大熊ワタルらそうそうたるミュージシャンが参加し、影響のほどがうかがえた。

原書：Derek Bailey and the Story of Free Improvisation
By Ben Watson (Verso, 2004)

【著者紹介】

ベン・ワトソン Ben Watson

イギリスの音楽批評家。『ザ・ワイヤー』『ハイ・ファイ・ニューズ』などの音楽専門誌に寄稿。主な著書に『フランク・ザッパ：プードル・プレイの否定弁証法』などがある。

木幡和枝 Kazue Kobata

東京藝術大学美術学部先端芸術表現科教授。P.S.1現代美術センター客員キュレーター。『この時代に想うテロへの眼差し』『私は生まれなおしている』など一連のスーザン・ソングの著書も翻訳。

音楽用語監修＝大熊ワタル[CICALA-MVTA]



all photos by Masato Okada

ギターについて真剣に考えれば、いずれベイリーにたどりつく。

そこで知ったことはその人の世界観を粉々にし、知っているつもりだった20世紀の音楽のあらゆる事実について、あらためて考えさせられる——芸術の意味、政治、階級社会、「良いアルバム」の概念についても。

「序章 自由について」より

ベイリーは主張している——即興ほど面白いものはないと。そして、コンピュータによる電子音楽を聴くにせよ、ステージ・セットを雷鳴のように駆け抜けるロック・グループを眺めるにせよ、交響楽団が誰か天才の「名曲」を掻き鳴らすのを聴くにせよ、次に何が起こるかを正確に

知っていることほどつまらなく、退屈なことはない、と。——[DB]

「序章 自由について」より

即興演奏だなんて言ったら、単に下手くさだっただろうと僕は思い込んでいた。ところが彼らの演奏を聴くと、下手だからではなく、意図的だということが腑に落ちる。上手いとか下手とかの問題ではなく、分析したくとも出来るものじゃなかった。僕は技術の練習だけに夢中になりすぎていた、とも思ったね。——[DB]

「第2章 ギタリスト稼業」より

スタジオ回りの仕事をしていた時期もあった。……ところが、自分がそんなもの望んでいないことに気がついたんだ。長年求

めてきたことは絶対こんなことではない、と。幸い同じ頃にあの連中に出会った。——[DB]

「出会った連中」とは誰か。従来型の成功という枠を押し広げる音楽の地平に立っていたトニー・オクスリーとギャヴィン・ブライヤーズという名の、二人のミュージシャンである。三人はジョゼフ・ホルブルック・トリオと名乗って、その後のベイリーの音楽の方向を変えるような演奏をした。これがジャンルとしてのフリー・インプロヴィゼーションの地盤を築いたとも言える。

「第2章 ギタリスト稼業」より

即興は相変わずゴミだ。——[DB]

「最終章 インプロヴィゼーションについて」より

- フランク・ザッパから17世紀音楽まで
- 工作舎の音楽関連図書 ● 好評発売中
- **インプロヴィゼーション** 即興演奏の彼方へ
デレク・ベイリー 2300円
- **めかくし・ジューク・ボックス**
- 32人の音楽家たちへのリスニング・テスト
- ザ・ワイアー編 2900円
- **大ザッパ論2** 鬼才音楽家の足跡1967-1974
大山甲日 5500円
- **スケルトン・キー** グレイフル・デッド辞典
D・ジェンク他 3200円
- **ハーディ・ガーディマン** ドノヴァン自伝
ドノヴァン 3800円
- **普遍音楽** 調和と不調和の大いなる術
A・キルヒャー 4800円

*税別価格

注文申込書

[書店印]	<h1>デレク・ベイリー</h1> <h2>インプロヴィゼーションの物語 予価 5500円+税</h2>	[お客様]
	<p>*お近くの書店にお申し込みください。工作舎へ直接お申し込みもできます。</p>	<p>お名前</p> <p>ご住所</p>
	 <p>〒169-0072 東京都新宿区大久保2-4-12新宿ラムダックスビル12F Tel.03-5155-8940 Fax.03-5155-8941 saturn@kousakusha.co.jp 工作舎 http://www.kousakusha.co.jp</p>	<p>お電話番号/e-mail</p>